

調査事項 環境施策について

環境施策の推進体制の見直し

1. 環境施策の推進体制の見直しの趣旨

本市の環境施策の推進体制については、国分寺市環境基本条例において、第27条で環境推進管理委員会、第28条で環境ひろば、第29条で環境ネットワーク、第30条で環境審議会の設置について定めるとともに環境基本計画において各組織を位置付け、これまで各組織の設置・運営に努めてきました。

条例制定から約20年が経過し、制定当時の想定と現在の実態との間に乖離が生じています。さらに、近年は脱炭素社会の実現や生物多様性の保全など、環境分野における課題が多様化・高度化しており、従来のように会議体において議論を重ねるだけでなく、関係主体が柔軟に連携し、実践的な取組を迅速に進めていくことが求められています。

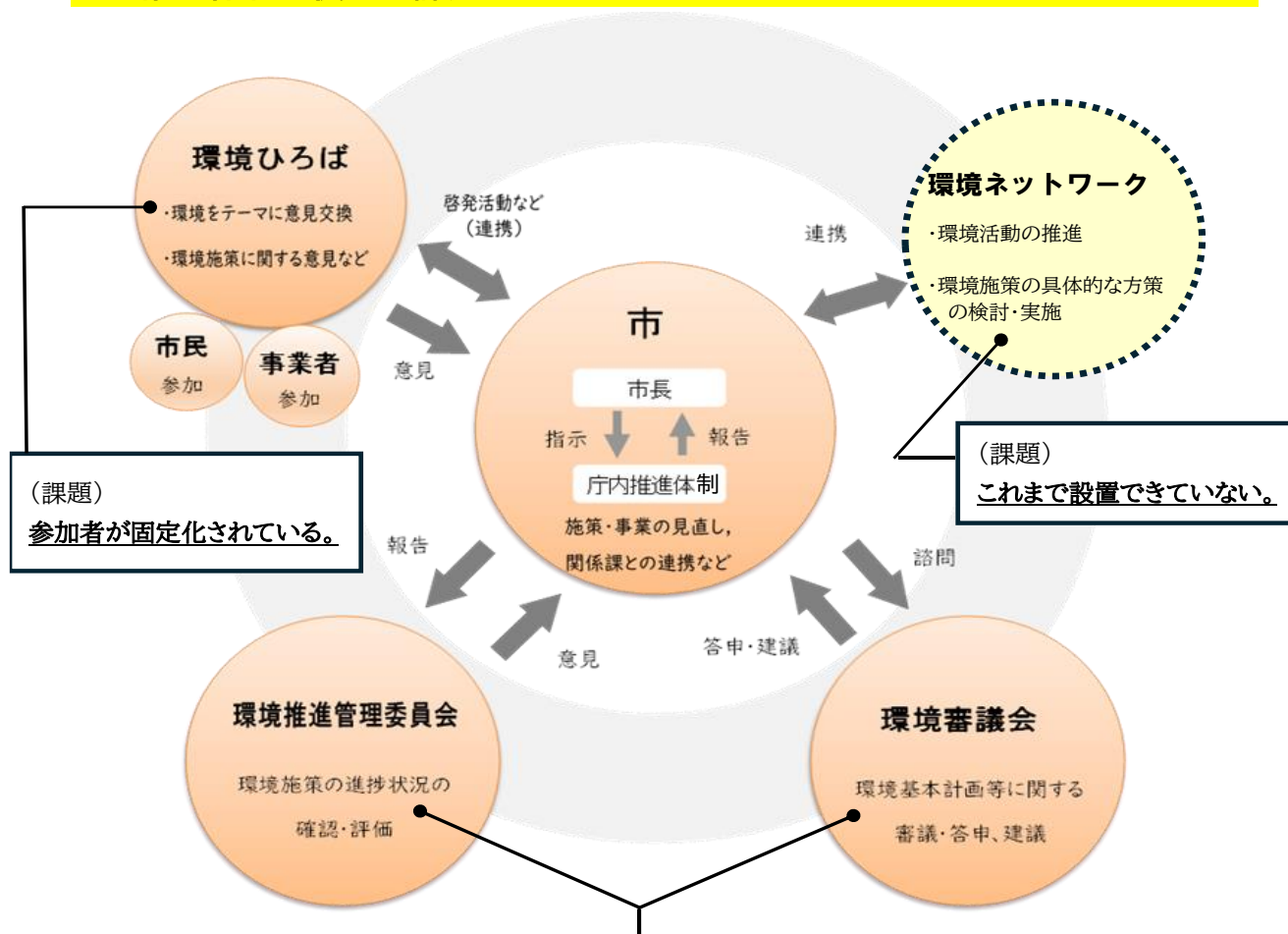
また、環境課題が複雑化する中においては、それぞれの会議体が担う役割や機能を改めて整理し、議論の目的や位置付けを明確にすることで、課題に応じた検討をより効果的に行い、具体的な施策へつなげていくことが重要となっています。

このため、本市における環境施策の推進体制について、各会議体の役割や位置付けを整理し、現状に即した体制へ再構築することで、環境施策をより実効性の高い形で推進できる仕組みとなるよう見直しを行います。

●本市の環境施策の推進体制は、環境推進管理委員会・環境ひろば・環境ネットワーク・環境審議会があり、環境基本条例（第27条～第30条）で定めるとともに、環境基本計画で位置付けている。

●各会議体の役割や位置付けを整理し、現状に即した体制へ再構築することで、環境施策をより実効性の高い形で推進できる仕組みとなるよう見直しを行う。

2. 推進体制の役割と課題



(経緯)

環境審議会と環境推進管理委員会の役割の重複について指摘があり、令和4年度環境審議会で役割を整理した。

【マネジメントサイクルにおける役割】

環境審議会 : 課題を把握し、計画の見直し(・策定)を行う。

環境推進管理委員会: 点検・評価を行う。

(課題)

●計画運用の後、課題等を把握し、計画改定を行うことを踏まえれば、計画運用における各施策の点検・評価から計画改定までを一つの会議体で実施するほうが効率的であると考えられる。

●推進管理委員会では、公募委員の確保に苦慮している。

3. 推進体制の見直し(案)



4. 推進体制の見直しの流れ（予定）

【令和7・8年度】 ※審議の状況により、意見聴取の回数は増減します。

